

庇の家

岡崎市中心部からはずれ、蒲郡方面へ行く途中の山裾に建つ住宅。東海道の藤川宿と赤坂宿の中間地点となる本宿が近くにある。

伸びやかな土地に建つ周囲の住宅は2階より1階が大きく、下屋がつくられていた。その屋根が重なる風景を箱型の住宅でも引き継ぐように1階の四周に庇を回した。

南には縁側をつくり、大きい庇を支える垂木は室内まで伸び、構造的に釣り合う。室内でも庇で守られる安堵感がある。内庇のような垂木の上には欄間があり、カーテンを閉めても垂木の間から光が漏れ、外を感じられる。外に開くというより、外部が内部に入り込む。垂木を登った先には階段と吹抜があり、空へと続く内向的な開放感をつくった。

南側に建つ実家との間に以前からあった庭を改修し、道路から崖越しに山並みが見え、風が流れる。実家と程よい距離感を保つ。風景を取り込みながら、それに引きずられない力強さをめざした。



西側の崖下の街道から見た外観



南側の実家から見た外観。大きな庇を四周に回すことでスケールを落とし、建物周囲に人やものの居場所をつくっている



東側の二項道路から見た外観



リビングから庭とその先の実家や崖を見る





ダイニングからリビングを通して庭や実家を見る。内庇のような垂木の上から光が漏れる



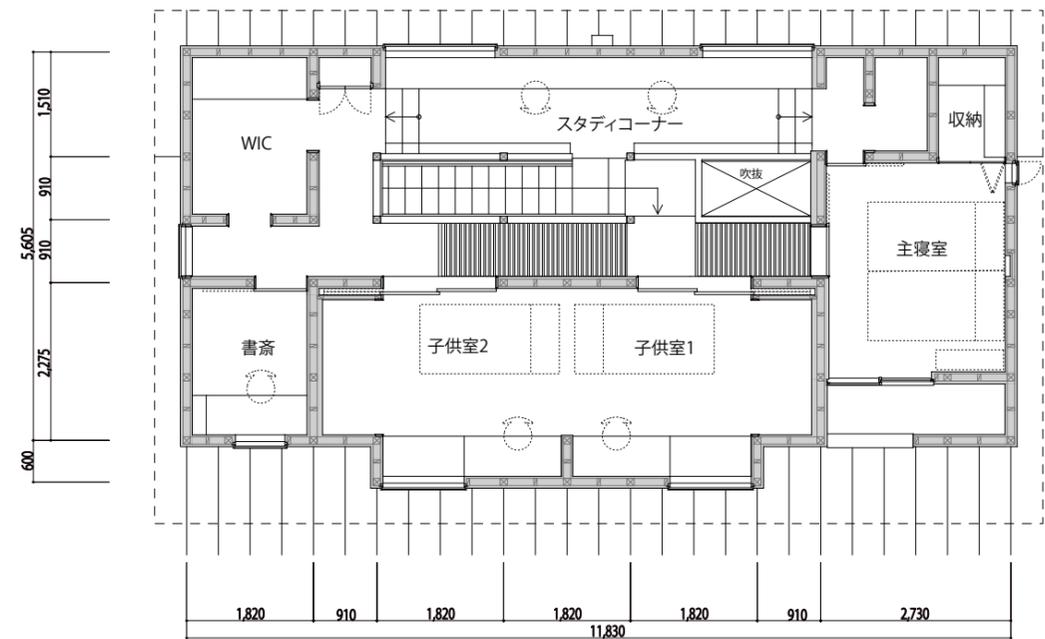
2階子供室の窓辺の居場所



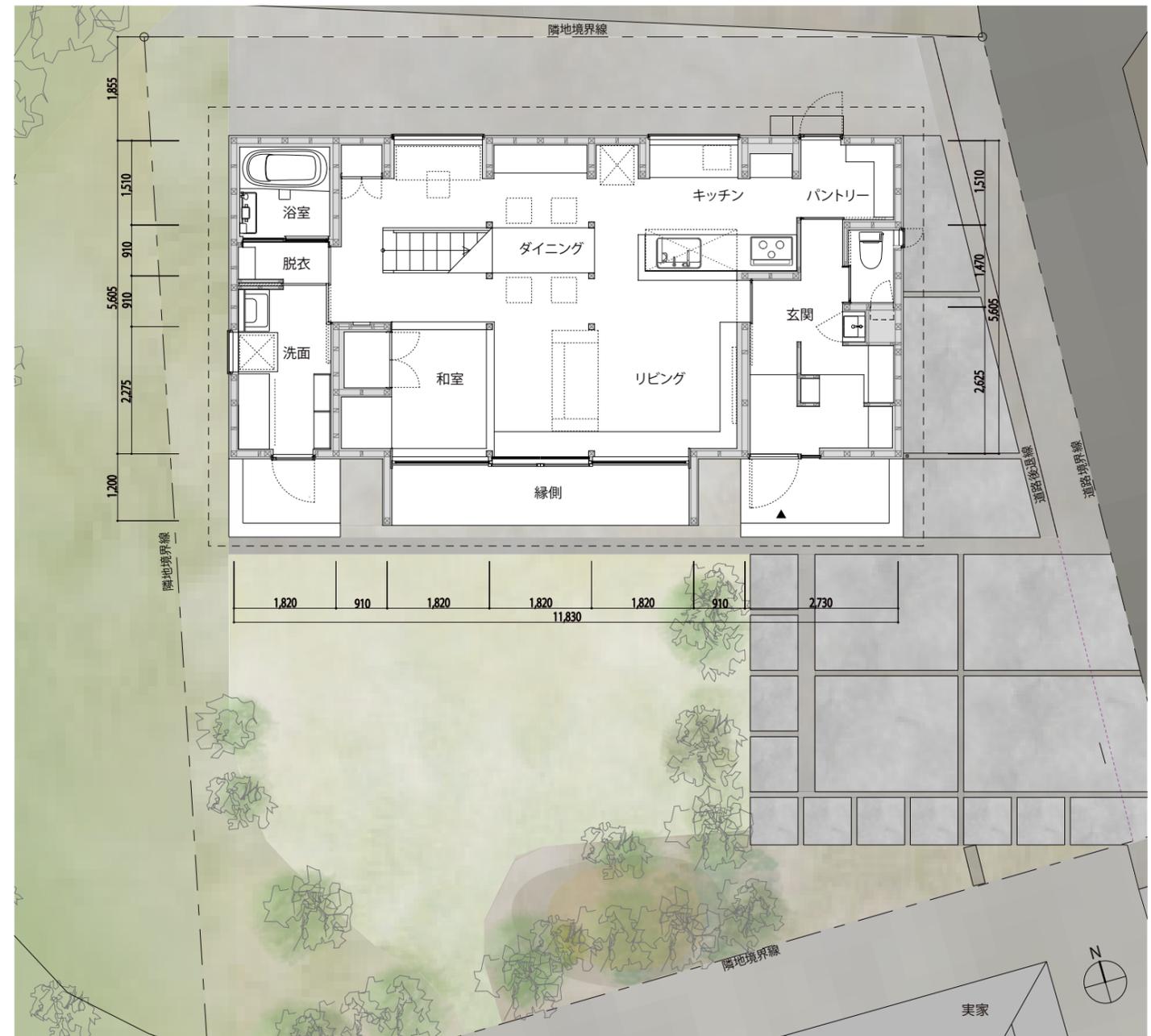
階段を登ると左にスキップフロアのスタディコーナーがある



すのこや吹抜を通してハイサイドから光が落ち、風が抜ける



2階平面図 1:100



配置兼1階平面図 1:100